

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	大阪大学	整理番号	C04
プログラム名称	生体統御ネットワーク医学教育プログラム		
プログラム責任者	金田 安史	プログラムコーディネーター	竹田 潔

### (評価決定後公表)

#### (総括評価)

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

#### [コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、本プログラムの前半の課程(1、2年次)には、申請時の計画に沿って学生が主体性を発揮する充実したプログラムが確立され、英語によるコミュニケーション能力向上を始めとするグローバルリーダー育成に相応しいプログラムが十分に機能していると判断できる。一方、学生が所属する研究科の研究室で過ごすことが多くなる本プログラムの後半の課程(3-5年次)に関しては、グローバルリーダー育成のコアとなるプログラム構築が未だ充分に行われておらず、今後は、この後半の課程においても、グローバルリーダー育成に焦点を当てた、体系的かつ国際性の高い教育プログラムを準備することが急務である。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、異分野融合を意識したプログラムを通じて育成されている学生たちのモチベーションは高く、各自の目指すリーダー像が明確になりつつある点からも、修了後の活躍が期待されるが、そのためにも、上記のとおり、今後のプログラムの後半の課程における教育プログラムの充実が重要である。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、プログラムの参画に積極的なメンターに加えて、企業からの優れた人材の参画が得られている。

優秀な学生の獲得については、現在、一定数の優秀な学生の参画が得られており、一定の留学生の比率も維持されている。ただし、その所属研究室や男女比に若干の偏りがあり、今後、参画する学生のより一層の多様性の確保に努められたい。

世界に通用する確かな質保証システムについては、今後、プログラム修了要件を明確化するとともに、多様な背景を持つ学生たちそれぞれがグローバルリーダーたるに相応しい資質能力を備えていることを保証する体制を構築し、実際に有効に機能させていくことが必要である。

事業の定着・発展については、支援期間終了後は、新設を予定している世界適塾大学院に移行する計画が示されているが、早急に具体的な新規学位プログラムの詳細を決定し、スムーズな移行に努めることが望まれる。